

平成26年度東大阪大学柏原高等学校 学校評価

1 めざす学校像

学園訓の具現化を図り、知力の充実と豊かな心を育む人間教育を推進し、社会に有為な人材を育成する。また、時代の要請を常に把握し、全学園教職員の力を結集して、地域社会から必要とされる総合学園をめざす。建学の精神を堅持しつつ、進学を目指す生徒、就職を希望する生徒等、多様な生徒に対応する教育を推進し、生徒が学業やスポーツに励み、生き生きと活動する魅力ある学校をめざす。また、卒業生が誇りに思える学校、中学生が多数志望する学校、保護者が通わせたいと思う学校、地域に親しまれ愛される学校づくりに取り組む。

① 伸びしろのある生徒を多数受け入れて学力の向上を図り、進学・就職の実績をアピールできる学校  
 ② 自己表現力、コミュニケーション力等の苦手な生徒が、安定した学習環境と充実した教育相談体制の中で生き生きと生活できる学校  
 ③ 凡事徹底を推進し、生徒の生活規律を確立させて多様な進路実現を可能とする学校  
 ④ スポーツに秀でた生徒を鍛え上げ、全国大会出場等の優れた競技実績を上げる学校  
 ⑤ 学校活性化の志を強く持ち、生徒を愛し、生徒と向き合い、家庭とも連携してとことん面倒を見ていく教職員集団が形成されている学校

2 中期的目標

**1 学力向上とキャリア教育の深化・充実**

(1) 教科会議の定例化と指導方法の研究推進  
 (2) わかる授業を目指した公開授業・授業公開、さらには授業研究会の確立  
 (3) 総合的な学習の時間を活用した「進路研究」でのキャリア教育の推進  
 (4) 生徒の学力実態と興味関心を踏まえた多様な進路実現が可能なカリキュラムの研究  
 (5) 放課後学習や補充学習等の実践

**2 自己肯定感の育成と凡事徹底の推進**

(1) 生徒が集中して学べる学習環境の整備  
 (2) 生徒の主体的な活動を育成するための生徒会活動の活性化  
 (3) 学級経営を充実させ、学級集団の育成を図る  
 (4) 挨拶、身だしなみ、頭髪、時間の厳守等の「凡事徹底」  
 (5) 問題事象への迅速な対応と外部機関等との連携の強化  
 (6) 生徒の実態のきめ細かな把握と転退学者「0」に  
 (7) 相談機能の充実  
 (8) 強化部の一層の飛躍と強化部以外の部活動の活性化

**3 学校の活性化と指導力等教員の資質の向上**

(1) 課題に応じた校内研修会の充実  
 (2) 人事交流の促進  
 (3) 地域との連携の強化  
 (4) 外部人材の活用

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [①H26.7実施, ②H27.2実施]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒：①及び②の調査を比較した結果、特徴的なものは以下のような点であった。</p> <p>(1) 調査全体を通して肯定的評価が高い数値を示している。「学校に登校するのは楽しいですか」「将来の夢や希望、卒業後の進路を考えて学校生活を送っていますか」等は、10P 前後上昇している。</p> <p>(2) 学年による差異がある。第2学年は、調査①より肯定的評価が多数の項目で上昇しているのに比べ、第1学年は大きな変化はないが、授業や教科指導に関する項目で肯定的評価の少しの下落が見られた。</p> <p>(3) 第2学年は、17項目で前回調査(調査①)を上回っている。特に、肯定的評価が10P以上上昇している項目は、「学校に登校するのは楽しいですか(15.6P↑)」「将来の夢や希望、卒業後の進路を考えて学校生活を送っていますか(13.4P↑)」「授業は丁寧で分かりやすく楽しいと思えますか(11.1P↑)」「先生は自分の良いところを認めてくれますか(16.2P↑)」等、26項目中5項目であった。</p> <p>○保護者</p> <p>(1) 一部前回調査より下回った項目があるが、総体的には今回の方が評価が上がっている。</p> <p>(2) 調査①では90Pを超える項目が7項目であったが、調査②では9項目と2項目増加した。</p> <p>(3) 80Pを下回る項目は、調査①②とも4項目となっている。「意欲的に授業に取り組んでいるか」「特色ある教育活動」「授業での指導方法の工夫」「施設設備等の教育環境」の4項目である。</p> <p>(4) 特に「生活指導の方針」や「進路指導」「部活動」については、高い評価を得ている。中でも、進路指導は進路に関するどの項目においても、90%を超える肯定的評価をいただいている。</p> <p>○教職員</p> <p>(1) 肯定的評価が80%以上の項目は、「毎時の目標を明確にして授業をしている」「十分な準備をし授業に臨んでいる」「授業進度は生徒の実態に合わせ適切か」「生徒の理解を確認して授業をしているか」等であった。生徒の理解状況等の学習状況の把握に努め、教科指導を行っている。</p> <p>【分析】</p> <p>保護者の回答結果から、本校の教育活動に対する信頼の厚さが感じられ、家庭との連携・協力という視点から心強く感じる。継続して、家庭との連携を図りながら信頼を損なわない実践が求められている。また、生徒の回答結果から、学校生活を肯定的に捉えている生徒が少し上昇し、改善傾向が見える。今後、さらに肯定的評価者の増加を図る教育実践を進め、学校全体の教育の質的向上につながるよう努めていきたいと考えている。学習指導について、教員と生徒との受け止めかたの差異が認められる。指導する側は教材研究等、授業が分かりやすく理解しやすいようにしっかり準備をして臨んでいるのですが、昨年度と同様の結果になっており、継続課題の「分かる授業」「楽しい授業」への改善、「指導方法・指導内容の工夫」等、授業力に関する研究をさらに進めていくことが大切である。毎週開催の教科会議や公開授業、授業公開等を通して、各教科で、学校全体で研究活動を推進する体制づくりを進め、生徒・保護者のニーズに近づく実践を進めていけるよう努めていく必要を感じる。一方「目的をもって学校生活を送っているか」が8P上昇し7割になったことは好ましい傾向で、生徒がより一層意欲的に学校生活を送ることができるなっていると感じる。</p>	<p>評価委員：学識経験者(柏原市在住) 保護者代表(後援会会長)          元後援会役員代表 同窓会代表</p> <p>○調査②で「進路指導の充実……」に関する項目の肯定的評価が100%になっているのは、学校の内情をある程度知っている保護者は、学校の指導を前向きに評価しわが子の成長が予想以上であることへの喜びと感謝の現れであると感じる。一方、一般の保護者でも、入学前の学校説明会や中学校の先生から柏高では細やかな指導をもらえる事を聞き、学力レベルに合った学校として、強い信頼や期待感を持ち受験させた。入学後3年間に子供が中学校時代に見られなかった大きな成長への評価があり、「柏高に預けて良かった」と感じている保護者が多数いると思われる。</p> <p>○生徒への調査では、質問の内容・意図の理解・判断が難しい生徒もいるが、部活動等は良く知っている事項だけに、案外正確な数値が出ているのではないかと。</p> <p>○学力向上とキャリア教育の深化・充実：多忙な中であっても特色を生かしながら目標に向けて授業の在り方や学習の場づくり等、横断的に実践しており、生徒が進路を考える上で重要であり、更なる充実を望む。</p> <p>○自己肯定感の育成と凡事徹底の推進：自己を見失いかけている生徒に、僅かに光りそうな特徴を見つけほめる事から指導することで、生徒の成長につながっていく。生徒の良さを見つける事をお願いしたい。</p> <p>○学校の活性化と指導力等、教員の資質の向上：様々なストレスの中で不満や自身への失望等が教員としての成長を阻む。ぬるま湯に浸かり淀みに入って無難で楽な道を選択しがちになるが、学校の活性化にはつながらない。学校の活性化と教員の資質向上とは表裏一体の関係になる。教員の資質向上なくして学校の活性化は有りえない。</p> <p>○生徒へのきめ細かな実践と学生の礼儀正しさは、日常の教育活動の結果だと思う。また、勉強・スポーツともに自己鍛錬の中に、先生方との良き交流、良き教育現場であることが伺える。教育への取り組みも目標が明確で安心できると思う。保護者の評価も全体的に上がっている事、学校の今後の教育方針や目標に大きな期待感が伺える。</p> <p>○学校の建て替え工事等による生徒への影響のない授業等の教育活動に配慮をお願いする。</p> <p>○良い点としては、学校での生活規律や学習規律等、基本的な生活習慣の確立に力を入れている点である。高校という人生の岐路に立っている生徒達は心も不安定で難しい時代なので一番大切な生活の基盤を整え、これからの人生に立ち向かえるようにすることだと思う。課題は、学校め来るのが楽しいかとの問いに、肯定・否定が半々になっているのが気になる。授業において分かりやすい工夫、自分の意見や考えが発表できるノウハウは、これから増々重要課題になってくる。生徒を取り巻く諸問題を、先生保護者ともども目を配り気を配り、守っていくことが大切だと思う。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上とキャリア教育の深化・充実	(1) 授業の質的向上			
	ア) 授業の質的向上のための研究推進体制の確立 イ) 教員間で研鑽し合う体制づくり ウ) 学び直しの時間充実	ア) 教科会議を定例化し、指導方法や指導内容の交流や情報交換等を行い授業の質を高める実践を行う。 イ) 学力向上部が中心になり、授業公開や公開授業期間の設定を行い、授業を通じた教員間の交流を進める。参観して気づいた点などは、参観カードを作成し授業者に渡す。 ウ) 放課後学習の場(真-Navi Room)や「国」「数」「英」における基礎学力を学ぶ時間の設定を行う。	ア) 自己診断における教科指導や授業に係る項目 イ) 実施授業公開などでの参加者数及び自己診断の授業に関する項目の実績 ウ) 自己診断における放課後学習の場の活用項目	ア) 教科会議の定例化で、教科内での打合せがしやすくなり効果を上げている。進度の調整だけでなく、指導方法や内容等の研修をしている教科もある。 イ) 今年度新たに授業公開期間の設定や公開授業研究会(12本の授業)の実施に取り組んだ。授業者・参観者双方にとって力量の向上につながっている。 ウ) 「真-Navi Room」の活用は第1学年が主に、第2学年は昨年に引き続き、同一の生徒が学習を続けている。第2学年は、外部の指導者に指導をお願いしている。
	(2) 多様な進路選択への対応			
	ア) 進路未定者「0」を目指す イ) 就職内定率100%の継続を目指す。 ウ) 進路を見据えた選択科目の充実と研究	ア) 進路指導部と学年との十分連携・情報交換を強化する中で、一人一人の生徒の状況を把握し、共通理解を図り、計画的系統的な進路指導を行う。 イ) 企業や事業所とのつながりを維持しつつ、生徒の興味関心も把握し、コーディネーターを活用し、内定に至るまで指導を徹底する。 ウ) 校内組織「カリプロ26」の提言を踏まえ、選択科目を開設する。またH27年度以降の進路につながる選択科目について研究を継続する	ア) H26年度進路状況の実績 イ) H26年度就職内定状況実績 ウ) 自己診断の評価結果	ア) 大学(短大含む)進学 119名 専門学校進学 41名 就職(縁故・自営含む) 69名 公務員(消防官1名、自衛官3名) 3名 (H27.2.20末現在) イ) 学校紹介の就職希望者は62名(53企業) 昨年同様、内定率100%を維持 (H27.2.20末現在) ウ) 生徒への調査では、半分を超える(53%)生徒が、選択科目は楽しく興味がわいたと回答している。より多くの生徒が関心をもって取り組むよう努めたい。
2 自己肯定感の育成と凡事徹底の推進	(1) 自己肯定感の育成			
	ア) 生徒が活躍できる場の設定 校外学習の質的転換 イ) 新設のキャリアアシストコースの充実 ウ) 退学者を「半減」	ア) 生徒会活動の活性化 生徒会が主体になった柏高祭(文化祭)の開催 学校説明会等での生徒会はじめ有志の生徒の協力、発表の場面の設定 宮滝(吉野)での野外活動及び集団活動による仲間づくりの実践 イ) 生徒サポート部の充実を図り、支援を必要とする生徒の状況把握と共通理解に努める。カウンセラー等、教育相談室との連携強化を図る。 ウ) 生徒へ状況のきめ細かな把握と家庭との連携強化を図り、転退学者を減少させる。	ア) 自己診断の評価結果 イ) アシストコースの自己診断項目の評価結果 ウ) 退学者数の推移	ア) 柏高祭では、生徒会が中心になり有志の生徒も含め運営をしており、初めての金券の処理もトラブルなく終えていた。一方で日常的な活動を組織することも今後の課題となる。 イ) 自己診断から、約8割の生徒が学校に来るのが楽しいと回答している。中学校時に不登校であった生徒も多数在籍しているが、クラスの様子や自己診断から学校での生き生きとした姿が見られる。進路を考えて生活している生徒も8割を超える状況である。 ウ) 達成できなかった。様々な理由で転退学者が出ているが、意欲を持たせる実践を通して退学者の減少をめざす。
	(2) 凡事徹底の推進と学習環境の整備			
ア) 挨拶、時間の厳守等の凡事徹底 イ) 問題行動への迅速な対応と古い生活指導からの脱却 ウ) 静謐な学習環境の確立	ア) 登校時の立哨指導及び通学路指導の徹底 生徒への声かけ イ) 継続した教育コーチング研修を実施(4回)し、受容と傾聴という姿勢での生徒への対応に心掛ける。また、学年会議や補導会議で家庭環境も含めた生徒の状況把握をし、生徒理解に努める ウ) 空き時間の教員による校内巡回を含め、静謐な学習環境整備のため、指導に乗らない生徒への丁寧な対応を行う。	ア) 外来者の評価・自己診断の該当項目評価結果 イ) 研修会のアンケート集計結果 ウ) 研修回数、研修内容	ア) 自己診断の当該項目では70%~80%の生徒が肯定的に評価している。来校者からは、「よく挨拶をしますね」と褒めていただくこともしばしば。スポーツコース生が中心であるが、他の生徒にも定着しつつある。 イ) 年間4回の研修であった。毎回20名以上の参加があり、熱心に参加型の研修に取り組んでいた。内容に課題を抱えている教員もいることは確かだが、アンケート集計からは、資格取得を考えている教員もいるようだ。 ウ) 空き時間を利用しての校内巡回を始めている。	
3 学校の活性化と指導力等教員の資質の向上	(1) 校内研修の充実			
	ア) 各部等分掌の課題に則した校内研修の実施 イ) 次代を担う教員の力量向上のための研修会実施 ウ) 授業を中心にした研修会の実施	ア) 「人権教育」「サポート部」「改革推進部」等、月曜日に設定の校内研修で計画的に実施 イ) MA研修:一定の年齢層の教員を中心に、学校経営の視点から研修会を実施 ウ) 各教科による公開授業研究会の実施	ア) 実施回数、研修内容 イ) 実施回数、研修内容 ウ) 実施回数、研修内容	ア) 今年度新たな内容の研修(教育コーチング、学校評価、新設アシストコースの状況)が計画的、先進的に実施でき、教員の資質の向上につながっている。 イ) 次代を担う教員への研修については、計画に基づく研修は100%は実施できていないが、来年度本校の教育活動に係る研修をMA研修と併せ実施した。 ウ) 全教科ではなかったが、12本の公開授業が実施され、指導法や生徒の様子等、参観カードや教科会議等で、研究・交流することができた。また、授業公開期間を設定することにより、幅広く授業参観ができ、教員間の交流がより深まり成果があった。(公開)授業研究会や生徒をテーマにした研修会の実施が今後の課題となる。
	(2) 外部人材の活用と地域連携			
ア) 専門学校や大学、企業等との連携と活用 イ) 教育活動への外部の人材活用 ウ) 柏原市・八尾市、自治会との連携	ア) 進学ガイダンスや大学・専門学校・企業見学会等の実施 イ) 部活以外の教育活動への人材活用や選択科目・各教科の授業等への専門性の配置 ウ) 地域連携の分掌を設け、市や商工会、自治会との積極的な連携を図る	ア) キャリア教育にかかる自己診断結果と実施内容 イ) 人材活用状況 ウ) 市や商工会等実行委員会主催行事参加状況	ア) キャリア教育の一環として実施。多数来校有。 イ) 第1学年の総合的な学習の時間、スポーツコース「進路研究」に外部の講師を招聘し、専門的な講話の実施 ウ) 行事等への生徒会や部員、留学生等の参加(市民総合フェスティバル、ぶどう狩りツアー、かしわら歴史まつり等) 地元柏原市との連携協定締結と連携推進	